令和３年度　向粟崎小学校評価報告書（中間）

（自校の実態に応じた学校評価書）

①よくあてはまる　②あてはまる
③あまりあてはまらない　④まったくあてはまらない

重点目標	主な具体的取組	現状	評価の観点	評価方法	実施状況の達成度判断基準	評価	①	○成果　◆課題　・改善策
学力の向上	基礎学力の確実な定着を図る取組の充実	学年会などで「話す・聞く・書く」の指導の手立てについて共通理解・共通実践が十分でない	学級の実態に合わせた学習規律の定着のための取組を実施した〔努力指標〕	学級・教科経営案	A：①＋②が９０％以上 B：①＋②が７５％以上 C：①＋②が６０％以上 D：①＋②が６０％未満	A 100%	25.0%	○学習規律の定着のための取組や成果が95%以上の肯定的評価として表れている。 ◆教職員の①（よく当てはまる）と答えた割合は、昨年度より25ポイント下がっている。 ・共通理解と共通実践を図っていく。 ◆ねらいに迫るための深めの発問を実施した教職員の①（よく当てはまる）の割合が6.7%と低かった。 ・学年会議や教材研究で、効果的な深めの発問を記録し、今後につなげていく。 ◆学力向上ロードマップの周知が不十分だった。昨年度よりも①（よく当てはまる）と答えた割合が9.7ポイント下がった。 ・学期ごとの評価と改善の機会を設定し、実践していく。
			友達や先生の話を反応しながら最後までしっかりと聞いている。〔成果指標〕	児童アンケート	A：①＋②が９０％以上 B：①＋②が７５％以上 C：①＋②が６０％以上 D：①＋②が６０％未満	A 95.7%	52.9%	
	学び合い、高まりの実感できる授業づくり	対話的学びが「意見の出し合い」で終わることがないよう、自己の変容に気づかせる授業づくりが求められる。	ねらいに迫るための深めの発問を実施した。〔努力指標〕	教職員アンケート	A：①＋②が９０％以上 B：①＋②が８０％以上 C：①＋②が７０％以上 D：①＋②が７０％未満	B 80%	6.7%	
			話し合いにより、多面的に考えたり、より深く考えたりすることができた。〔成果指標〕	児童アンケート	A：①＋②が９０％以上 B：①＋②が７５％以上 C：①＋②が６０％以上 D：①＋②が６０％未満	B 84.6%	41.5%	
	学力向上ロードマップの活用	学年・学級間格差が生じないよう、組織的なＰＤＣＡサイクルを進めていく必要がある。	学力向上ロードマップのPDCAサイクルをもとに、組織的に学力向上に取り組んでいる。〔努力指標〕	学級・教科経営案	A：①＋②が９０％以上 B：①＋②が８０％以上 C：①＋②が７０％以上 D：①＋②が７０％未満	B 81.3%	12.5%	
豊かな心の育成	児童が互いを認め合う温かい学級づくり	お互いのよさやがんばりを認め合う雰囲気はあるが、児童の自己有用感の高まりまでにはつながっていない。	児童が互いを認め合える具体的な取組をしている。〔努力目標〕	学級・教科経営案	A：①＋②が９０％以上 B：①＋②が８０％以上 C：①＋②が７０％以上 D：①＋②が７０％未満	D 68.7%	43.7%	○「心のアンケート」についてお便りをつけて実施したので、保護者にも児童を認める機会になった。昨年度よりも7ポイント上がった ○児童が友達の良い所を見つけられる機会を作り、昨年度よりも10ポイント上がった。しかし、できていないと答えた児童も13.3%いた。 ・行事や授業を中心としたいいところ見つけカードの取り組みを継続していく。
			「心のアンケート」をもとに、子どもと自分や友達のよさや頑張りについて話し合う時間をもった。〔成果指標〕	保護者アンケート	A：①＋②が８０％以上 B：①＋②が６５％以上 C：①＋②が５０％以上 D：①＋②が５０％未満	B 72.7%	21.7%	
			友達のよいところや頑張りを認めている。〔成果指標〕	児童アンケート	A：①＋②が８０％以上 B：①＋②が６５％以上 C：①＋②が５０％以上 D：①＋②が５０％未満	A 83.9%	43.9%	
			友達から認めてもらっている。〔成果指標〕	児童アンケート	A：①＋②が８０％以上 B：①＋②が６５％以上 C：①＋②が５０％以上 D：①＋②が５０％未満	A 80.8%	38.0%	
	場をとらえた「あいさつ」指導の実施	あいさつには個人差が大きく、来校者や地域の方へのあいさつはうまくできない子も多い。	友達や先生、地域の方へあいさつが定着するように指導した。〔努力指標〕	学級・教科経営案	A：①＋②が９０％以上 B：①＋②が８０％以上 C：①＋②が７０％以上 D：①＋②が７０％未満	B 87.5%	37.5%	○あいさつができていると答えた児童が昨年度より、2.5ポイント多かった。学校ではあいさつに一言プラスしたり、会釈によるあいさつを勧めたりしている。 ・地域へのあいさつや学校全体でのあいさつ運動を広めていく。
			子どもは家庭や地域で進んであいさつをしている〔成果指標〕	保護者アンケート	A：①＋②が９０％以上 B：①＋②が８０％以上 C：①＋②が７０％以上 D：①＋②が７０％未満	B 83.8%	34.3%	
			先生、友達、地域の方へ自分から進んであいさつができる〔成果指標〕	児童アンケート	A：①＋②が９０％以上 B：①＋②が８０％以上 C：①＋②が７０％以上 D：①＋②が７０％未満	A 91.3%	62.6%	
健康と安全	「早寝・早起き・朝ごはん」の育成を通した基本的生活習慣の確立	家庭への理解を図りながら、早寝、早起きなどの基本的な生活習慣の定着により、朝ごはんをしっかり食べることが出来る児童を、より一層増やしていく必要がある。	児童が健康（生活プランニング）や安全に気をつけて生活するための指導をした。〔努力指標〕	教職員アンケート	A：①＋②が９０％以上 B：①＋②が８０％以上 C：①＋②が７０％以上 D：①＋②が７０％未満	A 100%	15.0%	○肯定的評価が95%以上だった。しかし、教職員の①よく当てはまると答えた割合が、昨年度より38ポイント下がった。 ・コロナ感染防止対策以外の安全指導も意識していく。
			子どもは朝ごはんをしっかり食べて登校している。〔成果指標〕	保護者アンケート	A：①＋②が９５％以上 B：①＋②が８５％以上 C：①＋②が７５％以上 D：①＋②が７５％未満	A 96.6%	77.6%	
			朝ごはんをしっかり食べて登校している。〔成果指標〕	児童アンケート	A：①＋②が９５％以上 B：①＋②が８５％以上 C：①＋②が７５％以上 D：①＋②が７５％未満	A 96.8%	85.4%	
地域との連携・協働	地域人材の活用、地域交流の活性化による教育活動の充実と地域貢献	開かれた教育課程の実現のために、より一層地域人材の活用・地域交流を活発に行っていく必要がある。	地域人材を活用した授業を行った。〔成果指標〕 ①：３回以上　②：２回 ③：１回　④：０回	教職員アンケート	A：①＋②が８０％以上 B：①＋②が６５％以上 C：①＋②が５０％以上 D：①＋②が５０％未満	D 14.3%	7.1%	・コロナ感染防止対策として中止したり、制限がある中での実施をしたりしている。
働き方改革	業務の適正化を図るとともに、「ノー残業デー」の具現化を図る	月によっては超過勤務時間が８０時間を越える職員もいる。	ノー残業デーには、特別な場合を除き、６時を目処に業務を終了した。〔成果指標〕 ①毎週　②月２回程度 ③月１回程度　④できなかった	勤務時間記録	A：①＋②が８０％以上 B：①＋②が６５％以上 C：①＋②が５０％以上 D：①＋②が５０％未満	D 39%	5.5%	◆行事予定や連絡黒板に明記したが、勤務時間内での業務処理が難しい。 ・業務の平準化を進めていく。
学校評議員による意見			児童は授業に集中している。 先生対一児童ではなく、自分の意見を児童同士でぶつけ合える授業ができたらいい。 授業のまとめに友達の名前を入れて認め合いが見られた。 教師も児童を認める声掛けがもっとあったらいい。 あいさつがよくできている。					